

## 2009 年冬(2008 年 12 月～2009 年 2 月)の東北地方の天候

○高温  
○少雪  
○降水量多い

### (1) 2009 年冬(2008 年 12 月～2009 年 2 月)の天候

この期間は、大陸からの寒気の南下が弱く、冬型の気圧配置は長続きしなかった。また、低気圧の通過に伴って暖かな空気が流入することが多かったため、東北地方は顕著な高温、少雪となった。12 月末から 1 月前半は大陸からの寒気が西日本以西を中心に南下し、冬型の気圧配置となる日が多かったが、東北地方への寒気の影響は小さかった。期間中は、数日の周期で高気圧と低気圧が本州付近を通過し、低気圧の通過時に天気が崩れることが多かったため、東北地方の降水量は多くなった。

3 か月平均気温は東北日本海側で高く、東北太平洋側でかなり高い。3 か月間降水量は東北地方でかなり多い。3 か月間日照時間は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で平年並。降雪の深さの 3 か月合計平年比は、東北日本海側で 59%とかなり少なく、東北太平洋側で 48%とかなり少ない。

**12 月：**この期間、平年に比べ日本の東海上で高気圧が強く、日本海を進む低気圧や沿海州付近の気圧の谷に向かって暖かい南風が入ったため、東北地方は高温となった。下旬の後半には強い冬型の気圧配置となる日もあったが、その他の期間は冬型の気圧配置となる日は少なく、低気圧と高気圧が交互に日本付近を通過したため、前線や低気圧の影響を受けて、東北地方は東北南部を中心に降水量は多くなった。

月平均気温は東北日本海側で高く、東北太平洋側でかなり高い。月降水量は東北北部で多く、東北南部でかなり多い。月間日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。降雪の深さの月合計平年比は東北日本海側で 61%と少なく、東北太平洋側で 58%と平年並。

**1 月：**この期間、前半は冬型の気圧配置となる日が多かったが、東北地方は寒気の影響は小さく、後半は冬型の気圧配置となる日は少なかった。日本海や本州の南海上を通過した低気圧や前線の影響で暖かい空気が入ったため、東北地方は高温となり降水量は多くなったが、降雪量は少なかった。また、冬型の気圧配置の影響が小さかったため東北日本海側は多照となった。

月平均気温は東北地方で高い。月降水量は東北地方でかなり多い。月間日照時間は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で少ない。降雪の深さの月合計平年比は東北日本海側で 69%と少なく、東北太平洋側で 65%と少ない。

**2 月：**この期間、低気圧や前線が短い周期で通過し、天気は数日の周期で変化した。中旬後半に一時強い寒気が南下して冬型の気圧配置が続いたほかは、寒気の影響は小さく高温、少雪となった。なお、7 日は寒冷前線の通過に伴って大気の状態が不安定となり秋田県で竜巻による突風災害が発生した。また、13 日から 14 日にかけてと 20 日から 21 日にかけては、低気圧が発達しながら北日本を通過した影響で大荒れの天気となった。

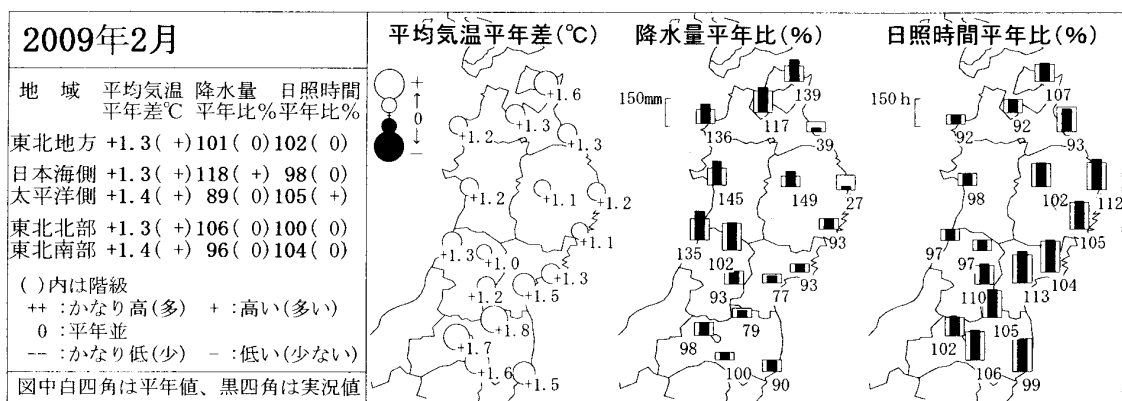
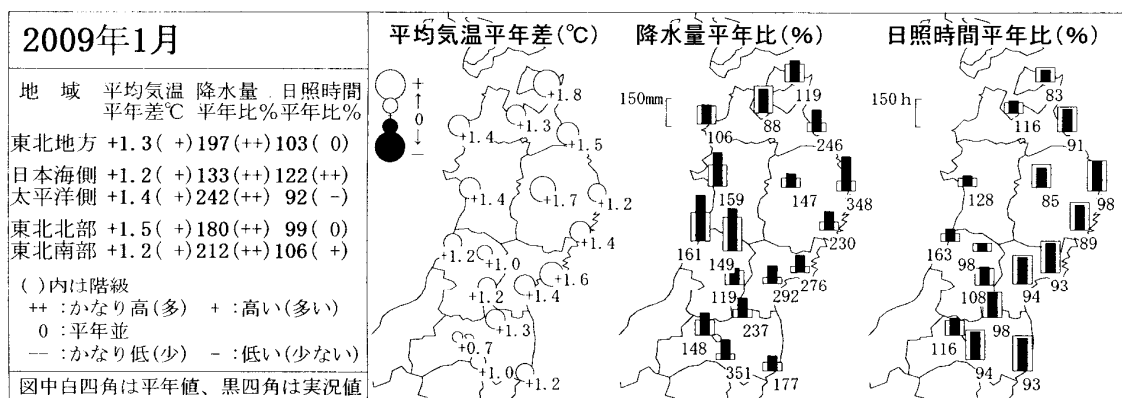
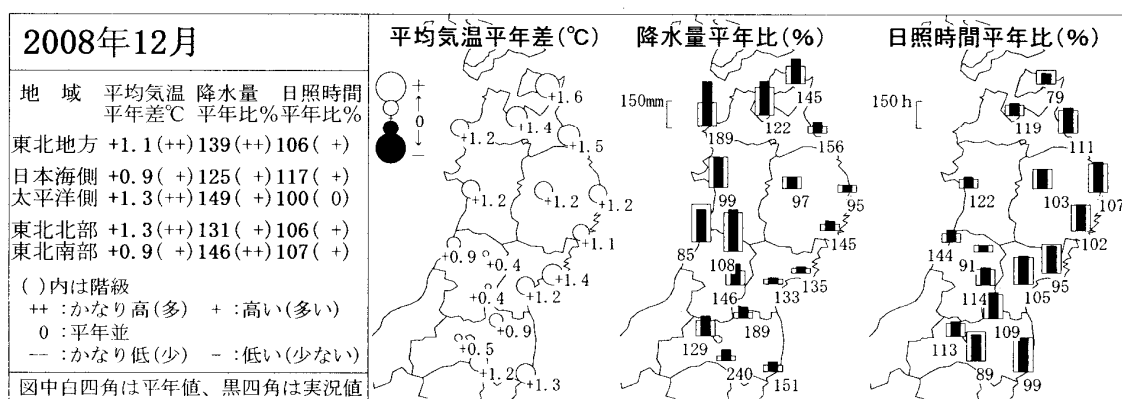
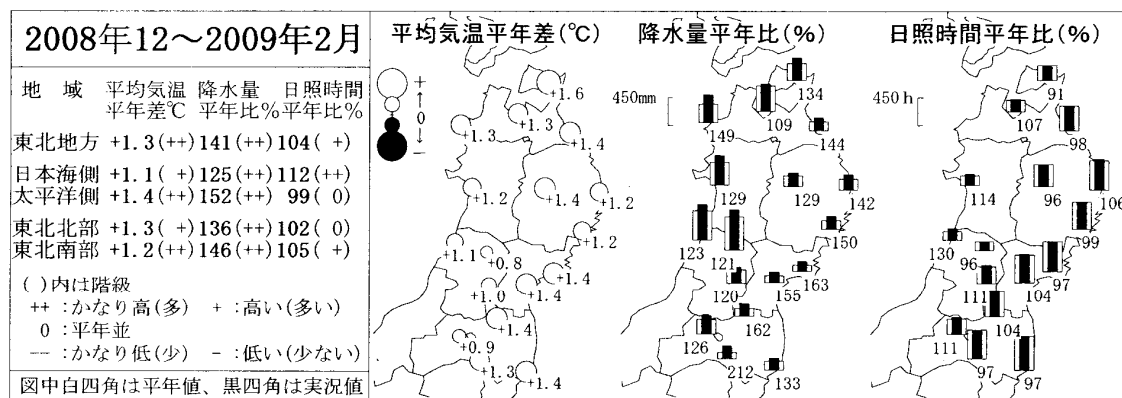
月平均気温は東北地方で高い。月降水量は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。月間日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で多い。降雪の深さの月合計平年比は東北日本海側で 47%とかなり少なく、東北太平洋側で 35%とかなり少ない。

注) 気候統計値は、東北地方にある 17 地点の气象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。細分地域については 2 ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は 1971-2000 年です。階級区分については、3 ページ目脚注を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ：仙台管区气象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(2) 2009年冬(2008年12月～2009年2月)の季節・月平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1971～2000年。

注) 東北日本海側：青森県津軽地方、秋田県、山形県、福島県会津地方  
 東北太平洋側：青森県下北・三八上北地方、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り地方  
 東北北部：青森県、秋田県、岩手県  
 東北南部：宮城県、山形県、福島県

### (3) 2009 年冬 (2008 年 12 月～2009 年 2 月) の気候表

地 点 名	平均気温(平年差) 階級			降水量(平年比)階級			降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比) 階級		
	(℃)	(℃)		(mm)	(%)			(h)	(%)	
青 森	0.9	(+1.3)	+	445.0	(109)	○	57	197.6	(107)	+
深 浦	1.9	(+1.3)	++	447.0	(149)	++	53	111.9]	( )	
								(統計月数: 1)		
む つ	1.0	(+1.6)	++	367.5	(134)	++	49	220.2	(91)	—
八 戸	1.3	(+1.4)	++	204.0	(144)	+	19	388.0	(98)	○
秋 田	2.2	(+1.2)	+	477.5	(129)	++	61	180.0	(114)	+
盛 岡	0.4	(+1.4)	+	219.0	(129)	++	33	344.7	(96)	—
大 船 渡	2.9	(+1.2)	+	207.5	(150)	+	23	424.8	(99)	○
宮 古	2.4	(+1.2)	+	242.5	(142)	+	18	492.5	(106)	+
仙 台	3.9	(+1.4)	++	169.0	(155)	+	19	464.9	(104)	○
石 巻	3.0	(+1.4)	++	166.0	(163)	++	21	471.9	(97)	—
山 形	1.5	(+1.0)	+	268.0	(120)	+	46	302.3	(111)	+
新 庄	0.5	(+0.8)	+	647.0	(121)	+	64	131.0	(96)	○
酒 田	3.5	(+1.1)	+	574.0	(123)	++	64	187.8	(130)	++
福 島	3.8	(+1.4)	++	205.0	(162)	++	27	427.6	(104)	+
若 松	1.2	(+0.9)	+	296.0	(126)	+	46	275.2	(111)	+
白 河	2.4	(+1.3)	++	209.0	(212)	++	17	453.9	(97)	—
小 名 浜	5.8	(+1.4)	++	190.5	(133)	+	20	531.5	(97)	○

(注) 1. 平年値は 1971～2000 年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+:高い(多い)      ○:平年並      -:低い(少ない)

各階級の区分値は、1971～2000 年における 30 年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が 10 個ずつになる)ように決めた。

また、値が 1971～2000 年の観測値の上位または下位 10%に相当する場合には階級の「+-」に \* を付加した。この場合には

かなり高い(多い)      かなり低い(少ない)

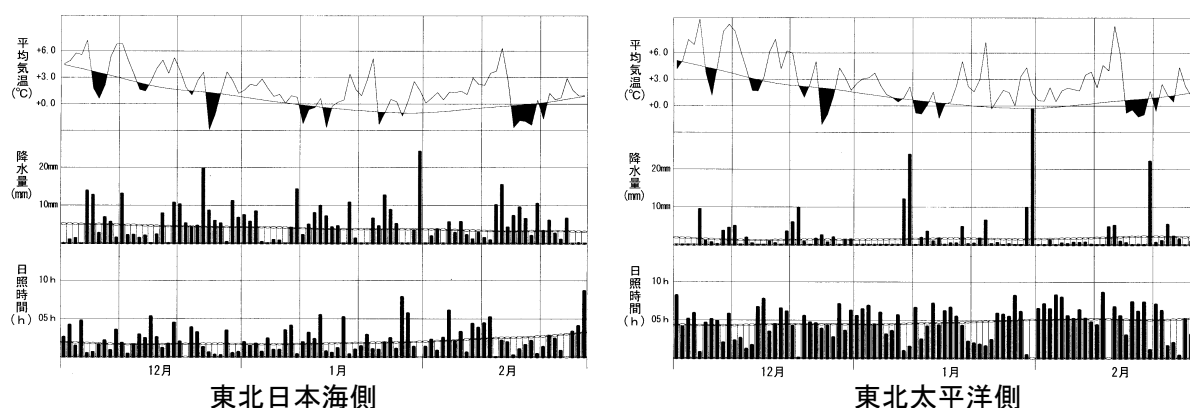
と表現できる。

また「降雪の深さ」と「最深積雪」の「階級」は平年値が「1cm」以上の場合のみ表示した。

3. 値の横に ) や ] がある場合には、3 か月別値を求める際に使用したデータ(月別値)に欠測等が含まれていることを示す。 ) 付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが ] 付きの値(資料不足値)については、値の下に記載した統計月数(統計に用いた、品質が十分な月別値の数)を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。

なお、月別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

#### (4) 2009 年冬 (2008 年 12 月～2009 年 2 月) の日別経過図



気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）

#### (5) 2009 年冬 (2008 年 12 月～2009 年 2 月) の極値・順位更新

(3 か月平均気温、3 か月間降水量、3 か月間日照時間の 3 位以内のみ)

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

3 か月平均気温高い方からの順位更新

順位	地点名	平均気温 ℃	平年差 ℃	これまでの最高 ℃ (西暦年)	開始年	平年値 ℃
2	小名浜	5.8 =	+1.4	6.4 (2007)	1911	4.4
3	仙台	3.9	+1.4	4.2 (2007)	1927	2.5
	福島	3.8 =	+1.4	4.2 (1949)	1891	2.4

3 か月間日照時間多い方からの順位更新

順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最大 h (西暦年)	開始年	平年値 h
3	酒田	187.8	130	189.3 (2007)	1938	144.7

#### (6) 月統計値の極値更新

(月平均気温、月降水量、月間日照時間、降雪の深さ月合計値多い方、月最深積雪大きい方の 1 位のみ。)

月降水量多い方からの順位更新

月	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最大 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
1 2 月	深浦	238.5	189	215.5 (2004)	1940	126.2
1 月	白河	107.5	351	102.0 (2002)	1940	30.6

### (7) 降雪量（降雪の深さの合計）

地 点	12月 (平年値)		1月 (平年値)		2月 (平年値)		冬合計 (平年値)		階級
	c m	c m	c m	c m	c m	c m	c m	c m	
青 森	96	170	158	250	93	205	347	626	—*
深 浦	45	77	74	123	53	114	172	315	—*
む つ	73	101	107	175	87	160	267	440	—*
八 戸	40	52	49	95	34	103	123	249	—*
秋 田	21	79	108	142	68	120	197	342	—*
盛 岡	39	68	55	106	52	98	146	274	—*
大船渡	2	11	5	23	9	27	16	61	—*
宮 古	3	19	33	43	10	72	46	134	—*
仙 台	7	14	6	29	11	31	24	74	—*
石 巻	2	7	29	13	1	24	32	44	○
山 形	102	92	102	163	67	147	271	403	—*
新 庄	131	168	221	283	145	242	497	694	—*
酒 田	20	64	106	138	54	119	180	321	—*
福 島	47	35	13	86	19	73	79	195	—*
若 松	67	100	117	185	45	160	229	447	—*
白 河	18	25	35	58	30	51	83	135	—

注： 階級については3ページ脚注を参照。

小名浜測候所が平成20年10月1日に特別地域気象観測所へ移行したことに伴い、  
小名浜の降雪および積雪の観測は終了した。

### (8) 最深積雪（積雪の最も大きい値）

地 点	12月 (平年値)		1月 (平年値)		2月 (平年値)		冬最深 (平年値)		階級
	c m	c m	c m	c m	c m	c m	c m	c m	
青 森	20	51	63	86	50	111	63	113	—*
深 浦	9	17	24	31	16	42	24	44	—
む つ	19	24	30	47	19	66	30	68	—*
八 戸	15	10	18	18	11	28	18	31	—
秋 田	8	16	32	31	15	37	32	41	○
盛 岡	21	17	20	27	27	33	27	35	—
大船渡	2	4	3	7	6	9	6	12	—
宮 古	3	6	22	12	22	29	22	30	○
仙 台	5	7	6	11	9	13	9	17	—
石 巻	1	5	22	8	21	13	22	16	+
山 形	41	23	37	37	37	46	41	50	○
新 庄	46	50	91	97	100	123	100	125	○
酒 田	6	13	34	27	29	30	34	36	○
福 島	26	10	8	18	8	18	26	25	○
若 松	29	28	38	44	10	46	38	57	—
白 河	8	8	13	14	13	14	13	21	—

注： 階級については3ページ脚注を参照。

小名浜測候所が平成20年10月1日に特別地域気象観測所へ移行したことに伴い、  
小名浜の降雪および積雪の観測は終了した。

( 9 ) 真冬日 ( 最高気温が 0℃未満の日 ) の日数

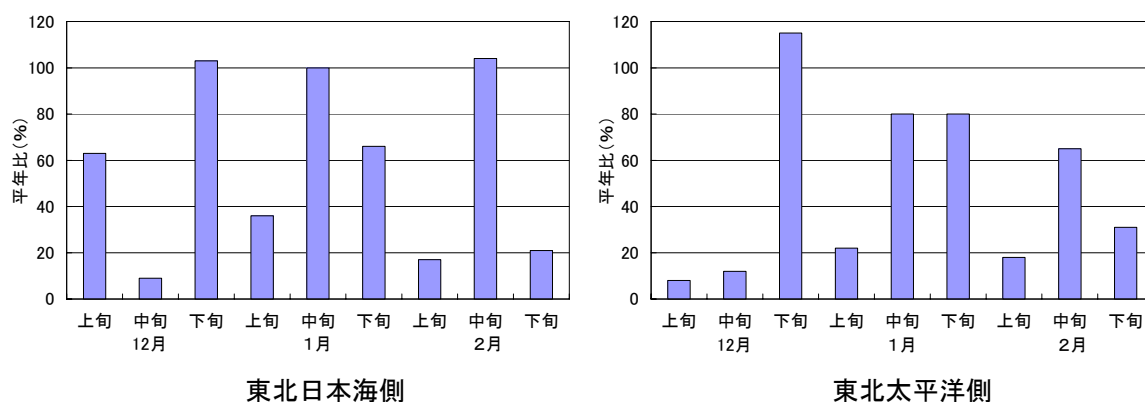
地 点	12月 日	(平年値) 日	1月 日	(平年値) 日	2月 日	(平年値) 日	冬合計 日	(平年値) 日
青 森	1	3.8	4	10.0	3	7.7	8	21.3
深 浦	0	2.2	3	9.2	3	7.6	6	19.0
む つ	1	3.4	4	10.1	4	8.0	9	21.4
八 戸	1	2.0	0	6.8	2	5.3	3	14.0
秋 田	0	1.0	1	6.0	1	5.0	2	12.0
盛 岡	1	2.2	1	8.2	1	5.3	3	15.6
大船渡	0	0.5	0	2.5	0	1.7	0	4.6
宮 古	0	0.1	0	1.3	0	1.2	0	2.7
仙 台	0	0.1	0	1.1	0	0.9	0	2.1
石 巻	0	0.3	0	2.1	0	1.6	0	4.0
山 形	0	1.1	0	5.6	0	3.9	0	10.7
新 庄	1	2.3	1	9.0	3	6.9	5	18.1
酒 田	0	0.2	0	2.5	0	2.0	0	4.6
福 島	0	0.1	0	1.3	0	1.1	0	2.4
若 松	0	0.9	1	5.6	0	3.9	1	10.4
白 河	0	0.3	0	2.4	0	1.8	0	4.6
小名浜	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

( 1 0 ) 冬日 ( 最低気温が 0℃未満の日 ) の日数

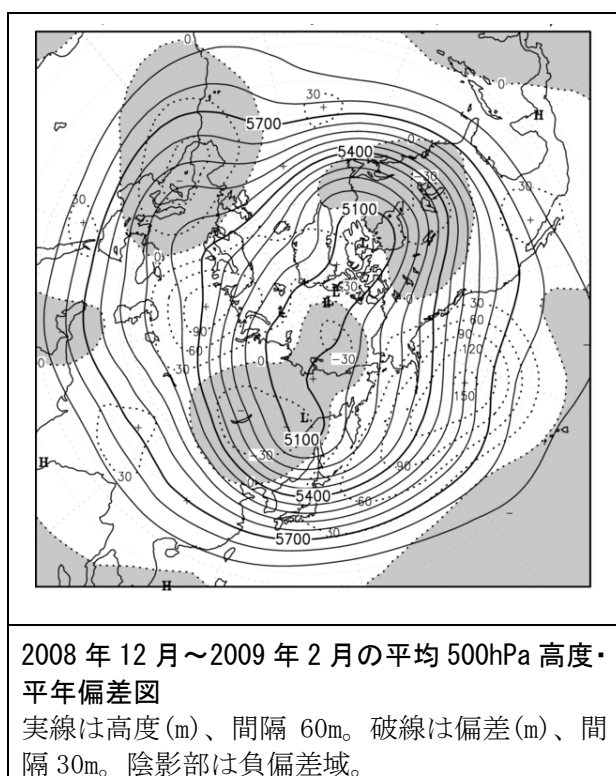
地 点	12月 日	(平年値) 日	1月 日	(平年値) 日	2月 日	(平年値) 日	冬合計 日	(平年値) 日
青 森	18	22.1	26	29.1	26	26.2	70	77.5
深 浦	12	16.4	26	26.4	23	23.9	61	66.7
む つ	21	24.5	27	29.0	27	26.3	75	79.8
八 戸	20	23.2	30	28.8	27	26.0	77	77.9
秋 田	11	16.9	21	26.3	20	24.1	52	67.4
盛 岡	22	25.3	29	29.6	27	26.8	78	81.8
大船渡	14	18.3	25	26.3	22	24.1	61	68.8
宮 古	20	21.9	27	28.0	23	25.4	70	75.4
仙 台	8	13.8	19	24.6	20	21.9	47	60.3
石 巻	16	17.6	23	26.4	21	23.4	60	67.2
山 形	24	20.7	29	28.5	26	25.6	79	74.9
新 庄	22	22.1	27	28.4	26	25.9	75	76.5
酒 田	5	9.3	16	20.8	14	19.7	35	50.0
福 島	12	14.9	21	24.4	17	21.4	50	60.9
若 松	23	21.7	29	28.0	26	25.3	78	75.1
白 河	23)	23.3	26	28.5	25	24.8	74	76.8
小名浜	3	10.8	12	20.6	11	17.8	26	49.6

注： 値の横の ) や ] については 3 ページ脚注を参照。

# ( 1 1 ) 東北地方における旬合計の降雪の深さ平年比の推移



# ( 1 2 ) 北半球の大気の流れ (2008 年 12 月～2009 年 2 月)



ヨーロッパから日本の東海上にかけて、負偏差と正偏差が交互に並び、中央シベリアから東シベリアの負偏差は、シベリアの地上高気圧が平年より弱かったことに対応している。太平洋から北米にかけては、ラニーニャ現象時の特徴と一致して、太平洋中部から東部に正偏差域、カナダに負偏差域が広がり、アリューシャン低気圧が平年より弱かったことに対応している。

日本付近では、東シベリアで負偏差、日本の東海上が正偏差となり、大陸からの寒気が南下しにくく、西谷傾向で低気圧の影響を受けやすかったことに対応している。